

私は2018年10月から石垣市住民投票を求める会の一員として活動している [REDACTED] と申します。私がこの運動に関わったのは、私が生まれ育った石垣島の自然や暮らしを支え、地域の信仰の象徴的な存在でもある於茂登山を削って基地を建設することへの不安から始まりました。於茂登山とは、石垣市自治基本条例の冒頭に「日本最南端の石垣市は、亜熱帯気候に属し、四方を珊瑚礁に囲まれ、於茂登連山に抱かれた自然豊かな街です」とあったり、私の卒業した八重山高校の校歌や歴史的な言い伝えにも登場したりするように、石垣島の人であれば誰もがその存在に慣れ親しみ、特別であることを知っています。

この駐屯地建設事業は、2019年4月から改正した県環境アセスメントの対象になるはずでした。しかし、防衛省はこの環境アセスを免れる形で2019年3月、一部の工事に先行着手したのです。地下水などの水源への影響を懸念する市民たちはこれに強く反発しました。私自身も国が行う公共事業でこのようなアセス逃れが起こると思っていませんでした。市民たちは2018年に大学教授などの専門家3人を現地に呼んで環境調査を実施しています。その結果、予定地周辺には上水道水源地や農業用水の取水せきがあり、有害物質で汚染されたら元に戻すことは大変困難であるため、環境アセス実施を防衛省に求めるべきだと石垣市に提言したのです。しかし、石垣市はこの提言には耳を貸さない上、市独自の調査も行おうとせず、私の行政に対する不信感は大きくなっていきました。

私はこの石垣島の水で育ちました。私の母は幼少期に石垣島に引っ越してきたのですが、初めて島の水道を飲んだ時に「水道水がこんなに美味しいなんて驚いた」とよく話していました。「水が美味しいのは、それだけ自然が豊かということなんだよ」と教えてくれました。私にとって石垣島のとても誇らしく思えるところです。水は誰にとっても命の源です。私自身だけでなく、私の家族や島の動植物、もしかしたらいつかできるかも知れない新しい家族にとって安心して飲める石垣島の水であって欲しい。切実にそう願っています。

自治基本条例には「市政の主権者である市民が地域のことを考えて行動する市民自治によるまちづくりを推進する」と記されています。私たちは、この理念を信じて自治基本条例28条1項および4項という住民投票条例が求める1/4の署名を目標に休みの日も仕事終わりにも、毎日署名集めに奔走しました。その結果、有権者1/3の署名を集めることができました。しかし、住民投票は行われていないままです。私たちが、あえて有権者1/4という高いハードルを課している自治基本条例による住民投票を求めた理由は、必ず実施されるものであると確信できたからです。自治基本条例制定に関わった当時の市職員や市民検討会議委員の方も「市長に対する1/4以上の請求があった場合には、これを請求するだけにとどまらせないよう義務を課している」とおっしゃっています。

1万4263筆という署名数は、地域での安心できる暮らしや健全な自治に共感した多くの市民が行動を起こした結果です。この運動に関わった多くの善良な市民の良心が、憲法と民主主義によって救われることを信じています。